

平成 26 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 坂井 秀弥

最終学歴	関西学院大学大学院文学研究科博士前期課程修了	
取得学位	学術博士（新潟大学）	
所属学会	日本考古学協会 考古学研究会 日本遺跡学会 木簡学会 条里制・古代都市研究会 新潟県考古学会 たたら研究会 物質文化研究会 文化財科学会ほか	
専門分野	日本考古学 文化財学	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の集落・官衙 ・文化財保護の実践的研究 	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学概論 ・考古学研究法 ・考古学特殊講義 ・考古学演習 ・世界遺産文化財学演習
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学演習 ・考古学特殊講義 ・ ・
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学特殊研究 ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学概論 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・国立歴史民俗博物館共同研究「古代地域社会の実像」（代表：国立歴史民俗博物館林部均准教授）の連携研究者 ・日本における遺跡保護の制度と体制に関する特質とその国際比較についての研究を進める。 	
【教育上の特記事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財・考古学の理解のためには、現地・現物に直接触れ、遺跡・文化財が行政的にどのように扱われているのか、考古学などの研究がどのように行われているのかを実際に見聞することが重要である。そのため、各科目においては、学外授業を行っている。26年度は、平城宮跡、纏向遺跡群、今井町伝建地区などを見学・巡検した。 ・社会的活動として参加している各地の委員会における動向について、すみやかに授業に反映させて、現代の社会における文化財をめぐる諸問題について理解を深めることを行っている。 	

<p>【社会的活動】</p>	<p>文化審議会文化財分科会専門委員 文化庁水中遺跡調査保存検討委員 日本学術会議連携会員 日本遺跡学会運営委員 文化財科学会評議員 日本考古学協会論文査読委員 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員 平泉の文化遺産世界遺産拡張登録検討委員 骨寺荘園遺跡指導委員 後三年合戦等関連遺跡整備指導委員会 小峰城跡整備計画策定委員 上野国新田郡庁跡調査・整備専門委員 佐渡金銀山世界文化遺産学術委員 岐阜城跡整備委員 三重県文化財保護審議会委員 国営木曾三川公園基本計画検討委員会専門部会委員 滋賀県文化財保護審議会委員 佐和山城跡総合調査検討委員 浄瑠璃寺庭園保存修理委員 大阪市環境影響評価専門委員 大阪府環境影響評価専門委員 豊中市文化財保護審議会委員、公益財団法人大阪府文化財センター理事 高槻市史跡整備検討委員 兵庫県古代官道調査委員会 多銀銅山遺跡調査委員 竹田城跡跡保存管理計画検討委員 尼崎市文化財保護審議会委員 史跡三木城跡保存管理計画策定委員 奈良県環境審議会専門委員 桜井市纏向遺跡調査委員 斑鳩町文化財センター運営委員 天理市大和柳本古墳群調査委員 明日香村歴史文化基本構想策定委員 島根県古代文化センター企画運営委員 史跡田儀櫻井家たたら製鉄遺跡整備検討委員 備後国府跡調査研究指導委員 周防国衙跡保存管理計画策定委員 讃岐国府調査保存活用検討委員 名護屋城跡保存整備委員 臼杵市キリシタン関係遺跡調査指導委員 徳之島カムイヤキ陶器窯跡保存管理計画策定委員 など</p>			
<p>【学内活動】 (学内職歴を含む)</p>	<p>奈良大学博物館長、国際交流委員</p>			
<p>研究業績[著書、学術論文等]</p>				
<p>著書、学術論文等の名称</p>	<p>単著、共著の別</p>	<p>発行又は発表の年月</p>	<p>発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称</p>	<p>概要</p>
<p>(著書)</p>				
<p>①『出雲鰐淵寺』</p>	<p>共著</p>	<p>2015年3月</p>	<p>出雲市教育委員会</p>	<p>「中世山林寺院の調査とその保護」を分担</p>
<p>②『発掘された古代国家』</p>	<p>共著</p>	<p>2015年3月</p>	<p>奈良大学博物館</p>	<p>考古学からみた古代国家の展示図録</p>
<p>③『日本版パブリックアーケオロジの探索』</p>	<p>共著</p>	<p>2015年3月</p>	<p>平成23～26年度科学研究費補助金「国際比較研究に基づく日本版パブリック・アーケオロジの理論と方法の開拓」(課題番号23320176) 研究成果報告書</p>	<p>日本における遺跡調査の仕組みについての報告</p>
<p>(学術論文)</p>				
<p>①英国ロンドンでみた遺跡保護</p>	<p>単著</p>	<p>2014年11月</p>	<p>『遺跡学研究』11号</p>	<p>英国ロンドンにおける遺跡保護についての特質について略述</p>
<p>②大学教育と埋蔵文化財行政</p>	<p>単著</p>	<p>2015年1月</p>	<p>『考古がジャーナル』665集</p>	<p>埋蔵文化財行政の人材養成と大学教育における現状と課題についての提言</p>

(学会発表)				
①史跡の保存と地域づくりー 上岩田遺跡の保存とこれから	単著	2015年1月24日	小郡市上岩田シンポ ジウム資料集	上岩田遺跡の歴史的意義と今後の保 存・活用に関する提言を述べる。
②日本の史跡100年の歩みと 展望	単著	2014年12月20日	『富山県埋蔵文化財 センターニュース』 129	日本における史跡の保護についての 歴史とその特質について述べた。
③日本における遺跡調査の仕 組みー地方行政とグローバル 化ー	単著	2014年9月19日	日英の遺跡保護制度 研究会における発表 (大和ファンド)	日本における戦後の埋蔵文化財保護 行政についての変遷を確認し、地方 行政が調査の主体を占めることを述 べる。
④北陸・国府・交通を考える	単著	2014年11月16日	石川県小松市こしの くに五市フォーラム	北陸地方の気候・風土と国府・交通 に関する特質を述べる。
(その他)				